

2022-23年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「八重山の未来のために行動しよう」



イマジンロータリー

2022-23年度RI会長テーマ
RI会長: ジェニファーE. ジョーン

地区ガバナー: 嶋村 文男

◇ ガバナー信条 ◇

“Take Action for Rotary Future”

“Reach Out for World Peace”

“ロータリーの未来のために行動しよう”

“世界の平和のために手を差しのべよう”

今月のロータリーレート 1\$¥136

島の水景 ~石垣島の水散策~

【宇根の井戸】

野積みの石壁を巡らす石垣遺構・フルストバル遺跡の崖下にある下り井戸です。干ばつでも枯れることがない大浜村の貴重な湧き水として大切にされてきました。昔から井戸には神が宿るとされ、毎年旧暦10月にニンガイ(願い)も行われています。遺跡と井戸を結びつける文献は見当たらないのですが、古き時代に空想は広がります。



3月のプログラム 3/15(水)ゲスト卓話 3/22(水)休会 3/29(水)会員卓話

ガバナー補佐: 仁開 一夫 会長: 大浜 勇人 副会長: 前原 博一

幹事: 松田 新一郎 副幹事: 今西 敦之

公共イメージ委員長: 山下 暢 SAA・出席委員長: 大本 綾子

例会日 水曜日 12:30~13:30
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
TEL/FAX(0980)83-2917
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

☆総会員数：54名（名誉会員2名・出席免除会員2名）

☆出席義務会員数：50名

☆出席人数：28名 欠席人数：24名 出席率：56.00%

《司会進行：大島盛幸・大本綾子》

☆ロータリーソング：手に手つないで ロータリーの目的

☆ソングリーダー：橋本孝太

☆ゲスト：伊志嶺吉盛様

（八重山盆栽協会 八重山支部事務局長）

会長挨拶 大浜 勇人



こんにちは。先週、仕事の都合で横浜に行って来ました。昼間は暖かいのですが、夜は恐ろしく寒くて、昼と夜の寒暖差は凄かったです。石垣島も暖かくなっていますが、来週はまた雨とともに気温が下がるという予報でしたので、身体に気をつけて頂ければと思います。来週 3/13(月)から、感染症の取り扱いが変わり、マスクの取り扱いも変わるとなっていたかと思えます。マスクは基本的には、咳が出る時にはやったほうがいいのかと思います。第三者に対する配慮は捨てないようにしていけたらと考えております。でも、できるだけ皆さんの顔を見ながらやっていきたいので、宜しくお願い致します。本日の卓話は、伊志嶺吉盛さん、八重商工の野球部で監督をしていたということで、野球をテーマにしたお話しをしていただきます。宜しくお願い致します。

☆ 幹事報告・松田 新一郎 ☆

本日は 2 点ございます。石垣市民憲章推進協議会より、「第 7 回健康づくりウォーキング～バナナ公園一周チャレンジ～」のご案内がきております。日時は、3/11(土)9 時集合、12 時終了予定となっております。場所はバナナ公園の南側駐車場です。続きまして、一般社団法人ロータリーの友事務所より、2023-24 年度ロータリー手帳お買い上げのお願いが届いております。ロータリーの関連資料なども記載されています。ご購入の方は事務局までお願い致します。

☆ 会員・委員会からの報告 ☆

今西敦之副幹事：次年度からの報告でございます。4/14(金)に東京のホテル椿山荘にて、2023-24 年度の地区研修協議会が開催されます。次年度の理事役員の方におかれましては、部門別に指名されている会員の方がいらっしゃいますので、ご報告させていただきます。1)会長・幹事部門：前原会員・今西、2)行動計画推進部門：宮城早人会員・山下会員、3)クラブ運営支援部門：南波会員・宮良薫会員、4)職業奉仕部門：東上里和広会員、5)社会奉仕部門：松田会員、6)国際奉仕部門：玉城会員・森田会員、7)青少年奉仕部門：吉田会員、8)ロータリー財団部門：調整中、9)米山奨学部門：大浜勇人会員、今回は 3 部構成になっており、18 時から懇親会の予定も入っております。事務局から地区研修協議会の案内を Slak にあげさせていただきます。3/20 までに欠のお返事をさせていただきますよう、宜しくお願い致します。

☆ ゲスト卓話：伊志嶺 吉盛 氏 ☆

（八重山盆栽協会 八重山支部 事務局長）

テーマ：野球指導における過去より未来へ

皆さん、こんにちは。私は、平成 4 年から八島マリズという少年野球チーム、それに並行して八重山ポニーズという中学生のチームを立ち上げました。平成 15 年から八重山商高の監督になり、平成 26 年で終わり、それから九州の大分のほうへ 3 年 4 ヶ月間、佐伯市にある日本文理大学附属高校へ指導に行きました。コロナが始まったちょうど 2020 年に帰って来まして現在に至っております。今日の卓話も、久しぶりの人前での喋りになりますので、あまり上手く喋れないですが、時間を頂いてお話ししたいと思います。いよいよ明日から WBC が始まります。沖縄県からも山川選手、大城選手、そして宮城投手が選ばれております。残念ながら八重山出身の平良海馬投手の出場はありません。去年は最優秀球宴投手で、その前の年は新人王と東京オリンピックの金メダル。輝かしい経歴があつて去年の最優秀球宴投手を受賞した時に、私から連絡したところ、来年の WBC も大丈夫です、という話をしていました。ところが今年、彼は自分の意志で先発に転向したい、だから WBC は辞退をするということで、WBC 抑えの部門の辞退が発表されました。本来ならば、彼が出るのもっと盛り上がるだろうと思っていましたけれども残念です。残念ですけれども、彼にとっては、一つの大きな区切りになる先発転向、すでにオープン戦で 6 イニング 6 失点、もう成績は表れています。彼が高校 2 年の夏まで八重山商高で指導しました。彼は、今でこそ 1 億 5 千万の年俸を貰うスタープレイヤーですけれども、高校に入学してきた 5 月の連休の時に、もう辞めたい、これ以上監督の練習にはついていけない、ということで辞めるとい事があったんです。まだ入って 2 カ月にもならないんだからもう少し頑張れと、いろいろ話しても頑として聞かない、それで彼にはお母さんが一番の応援団だったので、お母さんと呼んで、二人で話をさせたら、泣きながらも 1 回頑張る、頑張ってみる、ということで始めました。彼が新人王を取った時に、おめでとうというメールを送ったら、監督あの時辞めなくて良かったというメールが返ってきました。そういうふうなキツイ場面を乗り越えて、彼は今日があると思います。それと八重山商高が甲子園に行った 2006 年、その前から私は、八島マリズを指導してきましたけれども、そこにいた大嶺や金城、羽地、彼らが八重山ポニーズの全国制覇をして、そして世界大会 3 位になって、八重山商高に進学してきました。彼らも同じように、ひと月も立たないうちに、もう監督の練習がキツイ、持たない、全員で辞めようということで、校長室で保護者もみんな集めて、全員で辞めるとい事があったんです。ですけれども、保護者も含めて私と学校長と話をしました。「せっかく目の前にあるチャンスを捨てるのか、もう一度考えてみろ」ということで、当時サードをしていた羽地という子に話をふつたんです、お前は本当に辞めていいのかと、彼は一言、頑張ります、ということをやったら、残り 10 名全員が頑張ります、

ということで再スタートを切りました。今でこそああい練習はバワハラで問題になるかも知れませんが、八重山商高の練習は、朝は5時から夕方4時半から9時まで、1日の練習量が6時間～7時間、あの頃は全く休みもなかったもので、そういう練習を繰り返して、1年生大会から結果を出して、1年の秋はベスト4、1年生大会は優勝、優勝旗が初めて海を渡りました。彼らは、ほとんど全員が1年生で2年生は1人だけでした。彼らからすればこういう状態でも勝てるんだ、そこに彼らの緩みが出て、新人戦が終わって、その冬、冬場は一番鍛えて力をつけないといけない時期に、手を抜く、何かにつけて練習を休む、そういう事がありました。結局、春は負けました。そういう事の繰り返しで、彼らはやってきましたけれども、僕が彼らと平成6年からの付き合いで、最終的には10年間一緒に野球をやりましたけれども、家族以上に、家族よりも多くの時間を過ごした中で、何でも分かるし、彼らも僕の事をよく知っている、だからやりやすい部分もあったし、難しい部分もありました。2年になって自分たちがやるべき事が分からない、何をどうしようふうにしたら勝てるのか強くなるのか、そういう事が分からないということで、私は遠征に連れて行ったんです。最初は、九州遠征、その次が関東遠征、浦和学院の野球部の寮に泊めさせて貰って、1週間練習を見ながら一緒にやりながら、関東のチームと練習試合をして、初めて彼らが高校野球というのはこんなに厳しいものなんだな、こういうふうにしなないと勝てないんだな、というのがその時に感じていました。帰って来て秋の大会、ちょうどその年に九州大会が沖縄でありましたから、ベスト4に入って、3位決定戦で勝って九州大会。九州大会でも一つでも勝てば21世紀枠で出られるだろうと、先生方とはとにかく1勝はしてくれと、その代わりコールド負けだけはしないでくれという話で、九州大会へ臨みました。第1戦が福岡大濠高校で優勝チームの筆頭でした。ところがうちのチームは、金城のホームランを含め、8-1のコールドで勝ちました。あれは流石に僕もビックリしましたがけれども、先生方もみんなビックリして、これでほぼ21世紀枠は決まりだから次の試合だけはコールドで負けなようにという話をしながら、2回戦、3回戦を勝ちまして、決勝戦までいきました。決勝戦は負けましたけれども、決勝に進出した時に、八重山毎日新聞の号外が出ました。「八重山商高春夏通じて初の甲子園」という号外も出て、本当に島は盛り上がりました。それから選抜に出場できるよという、決定までの2カ月間はそれこそ大変でした。マスコミは沢山来るし、そして生徒は生徒で浮かれるし、これでは大変だということで、1カ月半ぐらい学校にある宿舎に全員閉じ込めて合宿です。1月30日でしたか甲子園出場が決まった時に、島中が喜んでくれて、港では汽笛が鳴るし、島全体が本当に燃えたと、喜んで横断幕や懸垂幕も沢山でました。そういう事もあって春、甲子園に行くことができました。甲子園では2回も勝つことができました。今こうして話していますが、彼らを甲子園に連れて行くまで本当にいろんな事がありました。甲子園から帰って来て、2回も勝ったので、島の

子供たちのハングリー精神のなさ、緊張感のなさ、帰って来たら事業の補修も続き、教室も見て回ったけれども、居ないんです。家に帰って休んでいるんですね。そういう事もあって、彼らが出て来るまで皆で待とうと、夜中の12時まで彼らが出るまで残りの選手とグラウンドで待機、休んでいたのは6名ぐらいいました。彼らが出て来て夜中の1時ごろまでランニングさせたというのもありました。普通では考えられない練習もしました。如何にして彼らをやる気にさせるか、引っ張っていくか、アメはあまりなかったのかもしませんがムチばかりだったのかもしません。とにかく彼らは必死になってついてきたと思います。それが夏の大会の優勝という形で表れました。ですが夏の大会に優勝して甲子園に行くまでがまた大変だったんですね。皆さんも記憶にあるかも知れませんが、千葉経大の試合では、4-0で負けていて4-4に追いついてエラーで6-4、そして最終回2アウトで追いついて6-6、延長10回に3点取って9-6で勝ちました。夏は2回勝ったし、甲子園は2回も出場できました。その後、大嶺はドラフトで指名されますが、ドラフトも大変だったんです。ソフトバンクとロッテのドラフト1位の重複で抽選になりました。そしたらバレンタイン監督が引き上げて壇上で踊っていましたね。国体に出場して帰って来た時、当時のロッテの社長が八重山商高に来て面談もしました。最初はお断りしたのですが、社長が石垣の球場を視察して、ここでロッテはキャンプをしたいという話をマスコミにしました。来年からキャンプをするためには球場の整備が必要との話もされて、本当にロッテがキャンプをしました。そういう意味では、大嶺のドラフト1位は大きな経済効果をもたらしたのではないかと思います。僕らが八重山商高で指導して感じたのは、今後、八重山から甲子園に行くためにどうするか、今の野球人口の減少、レベルの低下、僕が八重山商高の監督になった時も、100年経っても甲子園に行けないだろうと、言われていた時期です。そしてキャンプ誘致も毎年、石垣市議班がキャンプ要請に行っていた時期です。今思えば、なぜあの時にあのチームが甲子園に行けたのかなと振り返ってみると、僕のなかでは行けるべくして行けたと思っているんですね。というのは大嶺、金城の世代は、八島マリズからずっと見て来て、全国大会にも出だし、世界大会にも行けたし、ポニーの全国大会も制覇している、そこには小中高という一貫指導、基礎基本、もちろんマナーも含めて、そういうところからしっかりやってこれたから行けたんじゃないかなと、今振り返ってみたら奇跡的な出来事だったと思いますが、その当時は行けて当たり前、それぐらいに思っていました。勝つことを知っていた。ですから今後もし、八重山から甲子園に行くとするならば、小中高の一貫指導、そういう事をやっていかなければならないんじゃないかなと思います。現在私は、八重山ポニーズの代表も兼ねてやっています。中学校の軟式チームじゃなくて、硬式を中学生からやって、早くボールとバットに慣れて、高校に行ったらすぐにレギュラーになれるような、そういう子供たちを育てたい。それは私が平成10年にポニーを立ち上げた時も同じよう

な気持ちで立ち上げました。一時期、ポニーは解散しましたが、でも、また去年から再結成をして、ちょうど新一年生を含めると9名の部員が揃うようになりました。そのポニーの子供たちは毎日練習しています。彼らがしっかりと基礎基本を身につけて、意識を高く持ってやれるのであれば、そして彼らが八重山の高校に進学し、八重山に残って野球をするならば、可能性はあるんじゃないかと思えます。とにかく今、良い選手が育ってもみんな出ていくんですね。沖縄の子、石垣の子は身体能力が高いと言われていますが、私が3年4ヶ月間、大分の佐伯にいた時、3年間の間に沖縄の選手を35.6名連れて行きました。石垣島からも6名連れていきましたけれども、やはり向こうの子供たちと動きが全く違います。身体能力が高いわけではないんです。大分で2年目ぐらいの時に気づいたのは、今の時期はグラウンドで出来ないんです。12月から3月ぐらいまではグラウンドで野球ができません。ところが石垣、沖縄本島の子供たちは年から年中グラウンドにいられるわけです。ですから身体能力が高いわけではなくて、ずーっとバットを振って、ボール投げて走って、そういうところが基礎体力になって沖縄の子供たちはレベルが高いというふうに言われるのかなという事を感じました。ただ、沖縄の子供たちに足りないのは意識です。何のために自分は野

球をやっているのか、どうしたら上手くなるのか、そういうものに欠けている部分があるので、身体能力があってもそれを使いきれない。いい選手は島外に出ていくけれども、帰って来る子も結構います。もし、また石垣から甲子園に行くならば、昔やっていた練習はまず100%無理です。いかに子供と会話をしてコミュニケーションをとって意識を高くさせるか、基礎基本をしっかり身につけさせるにはどのようにしたらいいのか、そういう事を指導者と子供と一緒に考えながらやっていかないと非常に難しいんじゃないかと思う。指導のしにくいご時世で、うまく指導して、そしてトップレベルに持っていか、大変なことではありますけれども、今の指導者に頑張ってもらいたいし、僕らも側面からできる限りの協力はやっていきたいと思っています。甲子園に行ったときは、八重山中の皆さんが応援してくれて、沢山の寄付も頂きました。本当に感動をありがとうと言われましたけれども、沢山の皆さんに応援してもらって、彼らのお蔭で私もいい勉強をさせてもらったし、いい経験もさせてもらいました。今後、できるかぎり少しでも子供たちの成長に携わった指導をして行きたいと思っています。僕らが生きているうちに、もう一度甲子園に行ってほしいなと思います。その為にはハードルは高いけれども、どうかその夢を叶えて欲しいのと、皆さんの協力もお願いしたいと思います。今日は、ありがとうございました。

～ 例 会 風 景 ～



表彰：大浜勇人会長 ベネファクター認証
今西敦之氏 PHF+6



伊志嶺吉盛様
ご来会いただきました
ありがとうございました。

本日のニコニコ：☆大浜勇人氏：伊志嶺様 卓話ありがとうございました。

☆前木繁孝氏：伊志嶺監督!! お話し感動いたしました。ありがとうございました。WBCも楽しみです。

☆今西敦之氏：ショータイム ショータイム 明日、WBC 中国戦ガンバレ!! ジャパン ☆新垣精二氏：「吉盛監督」講話ありがとうございました。

☆新川正人氏：伊志嶺様 卓話ありがとうございました。☆垣本徳一氏：伊志嶺吉盛様 ゲスト卓話ありがとうございました。

☆玉城一吉氏：入会してちょうど一年になりました。今後とも、よろしく願い致します。

◆BOX ¥7,000 (累計 ¥289,000) ◆コイン ¥740 (累計 ¥16,614) 合計 ¥305,614



伊盛 米俊 氏 7日 (火) 宮良 幸男 氏 13日 (月) 大田 次男 氏 14日 (火)
玉城 一吉 氏 14日 (火) 南波 正幸 氏 29日 (水)

